



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月10日

上場会社名 株式会社博展
 コード番号 2173 URL <http://www.hakuten.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 田中 雅樹
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6278-0010

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	2,263	27.7	13		11		23	
29年3月期第1四半期	1,772	2.6	234		235		175	

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 27百万円 (%) 29年3月期第1四半期 177百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	6.09	
29年3月期第1四半期	46.39	

(注) 平成30年3月期第1四半期及び平成29年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であるため、記載してありません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	4,971	816	16.2	209.13
29年3月期	5,257	898	16.8	229.13

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 806百万円 29年3月期 883百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		14.00	14.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,200	5.5	230		233		180		46.69
通期	10,100	9.0	150		140		90		23.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	3,855,200 株	29年3月期	3,855,200 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	3,855,200 株	29年3月期1Q	3,775,307 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	9
生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位:百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
売上高	1,772	2,263	490	27.7
売上総利益 (%)	387 (21.9)	609 (26.9)	221	57.2
営業損失(△) (%)	△234 (△13.2)	△13 (△0.6)	221	—
経常損失(△) (%)	△235 (△13.3)	△11 (△0.5)	223	—
親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) (%)	△175 (△9.9)	△23 (△1.0)	151	—

(注) 売上総利益、営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失の下段に記載している数値は、それぞれ売上高に対する割合を示しております。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査(平成29年7月19日発表)」によると、広告業のうちSP・PR・催事企画における売上高の実績は、4月単月実績は前年同月比6.5%増、5月単月実績は前年同月比4.4%減と、概ね前年と同等水準にて推移しているものの、経済動向の不透明感の影響は依然として続いております。

このような環境の中、当社グループは、中期ビジョンである「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING(経験価値提供型マーケティング・パートナーになる)」の実現に向け、Experienceマーケティングサービスの提供を通じて、クライアントから永続的に選ばれるマーケティング・パートナーへと進化すべく、市場領域の拡大とサービスの拡充に重点を置きながら各事業を推進してまいりました。

- ① 展示会、イベント等のリアル領域におけるマーケティングサービスにおいて、直接取引を主体としたワンストップ・ソリューションの強みを活かし、市場領域の拡大・サービスの拡充を図る。
- ② デジタル・コンテンツ&マーケティング分野の強化に取り組むとともに、リアル領域とデジタル領域との融合により、新たなサービス価値を創造する。
- ③ 収益性の改善を重要な経営課題と位置づけ、プロジェクト毎の利益確保に努めると共に、ローコスト・オペレーションによるコスト抑制を図る。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、22億63百万円(前年同四半期比27.7%増)となりました。各商材カテゴリー別の売上高の状況は、次のとおりです。

(単位:百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
展示会出展	812	925	113	13.9
イベントプロモーション	170	402	232	136.6
商談会・プライベートショー	317	390	72	22.8
カンファレンス・セミナー	85	73	△12	△14.2
商環境	159	258	99	62.4
デジタル・コンテンツ&マーケティング	180	178	△1	△0.9
その他	48	34	△13	△28.3
売上高合計	1,772	2,263	490	27.7

売上高増加の要因としましては、展示会出展において、前期下期に行った営業活動量の増加を目的とした体制強化が奏功したこと、イベントプロモーションにおいて、自動車や化粧品等のBtoCメーカーへの営業活動を積極的に推進したことに加え、大型案件の受注があったこと、商談会・プライベートショーにおいて、顧客ターゲットを拡大しつつ、積極的な営業活動を展開したこと、商環境において、協業パートナーとの連携強化を図ったことに加え、展示会等で取引のある既存顧客に対し、商環境の提案活動を積極的に行ったこと等によるものです。

営業損失は13百万円(前年同四半期は営業損失2億34百万円)、経常損失は11百万円(前年同四半期は経常損失2億35百万円)となりました。これは、売上総利益率の改善と販売費及び一般管理費の抑制といった収益性の改善策を両軸にて実施したことによります。

売上総利益は、6億9百万円(前年同四半期比57.2%増)、売上総利益率が26.9%(前年同四半期は21.9%)となりました。これは、前述の要因により売上高が増加したことに加え、採算性を重視した業務オペレーションに注力し、プロジェクト毎の利益確保に努めたこと等によるものです。

販売費及び一般管理費は、6億22百万円(前年同四半期比0.1%増)、販売費及び一般管理費率が27.5%(前年同四半期は35.1%)となりました。これは、株式会社スプラシアの株式取得費用等の一時的な費用分が当期において減少したこと、ローコスト・オペレーションを推進すべく、管理部門を中心にコスト管理に取り組んだこと等によります。

親会社株主に帰属する四半期純損失は23百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億75百万円)となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業※1

当第1四半期連結累計期間におけるリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、21億16百万円(前年同四半期比27.5%増)、セグメント利益は63百万円(前年同四半期はセグメント損失1億64百万円)となりました。

これは、前述に記載のとおり、売上高においては、商材別の事業戦略が奏功したこと、セグメント利益においては、プロジェクト毎の利益確保及びローコスト・オペレーションの取組みによる改善効果によるものです。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業※2

当第1四半期連結累計期間におけるデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、1億68百万円(前年同四半期比37.3%増)、セグメント損失は52百万円(前年同四半期はセグメント損失42百万円)となりました。

これは、デジタル領域におけるグループ戦略の実現に向けて体制変更を実施した事に伴い、一時的に管理コストが増加したことによるものです。

※1. 展示会・イベント等、人と人が直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。

※2. インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域、ロボティクスなど、最先端のデジタル・テクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計49億71百万円(前連結会計年度末比5.4%減)、負債合計41億54百万円(前連結会計年度末比4.7%減)、純資産合計8億16百万円(前連結会計年度末比9.1%減)となりました。

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は36億50百万円(前連結会計年度末比2億70百万円減少)となりました。これは、受取手形及び売掛金が前連結会計年度末比7億16百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は13億20百万円(前連結会計年度末比15百万円減少)となりました。これは、のれんの償却により前連結会計年度末比16百万円減少したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は29億44百万円(前連結会計年度末比31百万円減少)となりました。これは、買掛金が前連結会計年度末比3億32百万円減少したものの、リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業において新規借入を行ったことにより短期借入金が前連結会計年度末比3億円増加したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は12億10百万円(前連結会計年度末比1億72百万円減少)となりました。これは、約定返済により長期借入金が前連結会計年度末比1億60百万円減少したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は8億16百万円(前連結会計年度末比81百万円減少)となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したこと及び配当を行ったことにより利益剰余金が前連結会計年度末比77百万円減少したことが主な要因となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における業績経過は、概ね計画通りに推移しているため、第2四半期連結累計期間並びに通期の業績予想につきましては、平成29年5月11日の決算発表時に公表いたしました業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,398,517	1,685,990
受取手形及び売掛金	2,158,303	1,442,212
製品	4,486	10,290
仕掛品	139,541	292,162
原材料及び貯蔵品	2,087	4,341
その他	221,052	218,037
貸倒引当金	△2,405	△2,174
流動資産合計	3,921,583	3,650,860
固定資産		
有形固定資産	230,381	225,565
無形固定資産		
のれん	257,245	240,811
その他	637,476	644,762
無形固定資産合計	894,721	885,573
投資その他の資産		
その他	212,269	210,790
貸倒引当金	△1,385	△1,268
投資その他の資産合計	210,884	209,522
固定資産合計	1,335,987	1,320,661
資産合計	5,257,571	4,971,521
負債の部		
流動負債		
買掛金	924,166	591,484
短期借入金	500,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	1,123,133	1,081,395
未払法人税等	490	5,155
賞与引当金	135,347	71,483
工事補償引当金	1,900	2,795
その他	290,644	392,082
流動負債合計	2,975,682	2,944,395
固定負債		
長期借入金	1,244,702	1,083,871
その他	138,490	126,442
固定負債合計	1,383,193	1,210,314
負債合計	4,358,875	4,154,709
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,449	174,449
資本剰余金	289,331	289,331
利益剰余金	414,276	336,821
株主資本合計	878,057	800,602
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,279	5,654
その他の包括利益累計額合計	5,279	5,654
新株予約権	1,033	1,015
非支配株主持分	14,325	9,539
純資産合計	898,695	816,811
負債純資産合計	5,257,571	4,971,521

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	1,772,640	2,263,356
売上原価	1,384,830	1,653,718
売上総利益	387,810	609,637
販売費及び一般管理費	622,390	622,788
営業損失(△)	△234,579	△13,151
営業外収益		
受取配当金	63	81
物品売却益	—	3,925
雑収入	2,876	923
営業外収益合計	2,939	4,929
営業外費用		
支払利息	3,121	3,654
雑損失	294	0
営業外費用合計	3,416	3,654
経常損失(△)	△235,056	△11,876
税金等調整前四半期純損失(△)	△235,056	△11,876
法人税、住民税及び事業税	2,296	517
法人税等調整額	△59,577	15,874
法人税等合計	△57,280	16,391
四半期純損失(△)	△177,776	△28,267
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,651	△4,785
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△175,124	△23,482

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△177,776	△28,267
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	462	374
その他の包括利益合計	462	374
四半期包括利益	△177,313	△27,893
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△174,661	△23,107
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,651	△4,785

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュ ニケーション	デジタルエクスペ リエンス&コミュ ニケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,660,020	112,620	1,772,640	—	1,772,640
セグメント間の内部売上高又 は振替高	300	9,784	10,084	△10,084	—
計	1,660,320	122,404	1,782,724	△10,084	1,772,640
セグメント損失(△)	△164,686	△42,457	△207,143	△27,435	△234,579

(注) 1. セグメント損失の調整額△27,435千円は、のれんの償却額△20,868千円、セグメント間取引△6,567千円であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション」セグメントにおいて、株式会社スプラシアの株式を取得し、連結子会社としたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては271,735千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュ ニケーション	デジタルエクスペ リエンス&コミュ ニケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,113,726	149,629	2,263,356	—	2,263,356
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,679	18,470	21,149	△21,149	—
計	2,116,405	168,100	2,284,505	△21,149	2,263,356
セグメント利益又は セグメント損失(△)	63,386	△52,264	11,122	△24,273	△13,151

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△24,273千円は、のれんの償却額△16,433千円、セグメント間取引△7,839千円であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

前第1四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	1,378,188	95.2	1,812,989	128.6
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	183,484	70.5	345,870	123.8
合計	1,561,673	91.4	2,158,859	127.8

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

当第1四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	2,753,062	199.8	2,927,533	161.5
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	230,349	125.5	382,608	110.6
合計	2,983,411	191.0	3,310,141	153.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

前第1四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	1,660,020	96.6
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	112,620	112.4
合計(千円)	1,772,640	97.4

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

当第1四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	2,113,726	127.3
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	149,629	132.9
合計(千円)	2,263,356	127.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。